

## ミハル「ELL Lite」活用したリモート提案

極超低遅延の2K/4K対応HEVCエンコーダー・デコーダー「ELL Lite」を用いた多彩な伝送デモが注目されてきたミハル通信は今回、やや視点を変えたユニークな提案を行っていた。

「ELL Soundyard」によるイマーシブ立体音響空間デモもリッチコンテンツの提供という点で興味深いですが、より関心を持ったのが「『ELL Lite』を用いた次世代リモートプロダクション提案である。

目指す方向性は「中継車レス」。現場から映像・音声素材をネットワーク経由で局まで伝送し、制作作業のすべてを局で行う。局まではフレッツv6折り返し、または自社のファイバやPONを有効活用してネットワークを構築する。

気になるのは通信環境を含めた品質の安定だが「20Mくらいあれば満足いただける映像・音声品質が確保できると見ています」（ミハル通信）と、展示会を通じてユーザの反応を見定める方針のようだ。

展示では、会場内をカメラマンが動き回り、その映像をリアルタイムで伝送した映像・音声をブース側で表示しており、「最終的にはお客様の判断になりますが、この品質レベルを安定して保持できる、という部分を見ていただければ」（同）としていた。

ケーブルテレビでは、地域のお祭りなどのイベント会場などからの生中継で有効活用できそうな今回の提案。中継車なしで安定したワークフローを組むことができれば、コスト面・人員面でも大きなカットが期待できる。



写真7 ミハル通信

極超低遅延の2K/4K対応HEVCエンコーダー・デコーダー「ELL Lite」を用いた多彩な伝送デモを実施。